

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		令和4年度 第3回教育に関する事務の点検・評価委員会
事務局(担当課)		庶務課
開催日時		令和4年12月19日(月) 午後5時30分～午後7時00分
開催場所		豊島区役所 教育委員会室(本庁舎8階)
議 題		(1) 評価対象事業のヒアリング及び質疑応答 ① コロナ禍における学校生活について ② 特別支援教育(インクルーシブ教育の推進) (2) その他
公開の 可否	会 議	■公開 □非公開 □一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	■公開 □非公開 □一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員 (敬称略)	美谷島 正義 福 本 みちよ 大 野 春美
	その他	教育長、教育部長、教育施策推進担当課長、学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、指導課長、教育センター所長
	事務局	庶務課長

審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
美谷島委員長	<p>【開会】 それでは、只今から第 3 回教育に関する事務の点検評価委員会を開催いたします。 まず、事務局より本日の傍聴について報告をお願いします。</p>
事務局	<p>本日傍聴の方はいらっしゃいません。</p>
美谷島委員長	<p>わかりました。 それでは、お手元に資料があると思います。 次第に基づいて進めます。 まずはじめに、「コロナ禍における学校生活について」です。 このことについては、ハード面とソフト面がありますから、ここでは、学務課と指導課からそれぞれご説明いただきます。まず初めに学務課長からご説明をお願いします。</p>
星野学務課長 丸山指導課長	<p>【議事（1）①「コロナ禍における学校生活について」の説明】</p>
美谷島委員長	<p>ありがとうございました。只今「コロナ禍における学校生活について」学務課と指導課から取組状況の説明がありました。只今の説明に、ご質問・ご意見はございますか。 大野委員をお願いします。</p>
大野委員	<p>コロナの影響で大きく教育環境が変わったということで、タブレットを子供たちに配布頂き、随分子供たちもタブレットの活用をマスターし、オンライン授業にも慣れてきたと思います。一般の私たちも対面とオンラインとのハイブリットを活用していますので、学校行事の中でも活用し、これからまた前進していくのではないかと思います。 そのような中で、コロナの影響で不登校のお子さんも増えていると聞いております。虐待等の状況も学校が一番よくわかっているかと思いますが、そういった状況も掌握しているのか、増えているのかどうか伺いたいです。 この間、富士見台小学校でも ISS の現地審査会で、オンラインを通して海外の審査員の方とも繋がって、今回無事に再認証を頂ける事になりましたが、オンラインにより、大きく可能性が広がり、子供たちにとってもこれから生きていくのに必要なツールなのではないか、良い環境に発展していると感じています。 そのような状況の中での子供たちの様子を把握しているようでしたら教えてください。</p>
美谷島委員長	<p>指導課長をお願いします。</p>

丸山指導課長	<p>心のケアのアンケートや、面談において、最初はコロナ禍での不安感がメインでしたが、最近では、家での困り感、虐待、ヤングケアラーにも及んでいて、そのような状況を把握するチャンスとして、心のケアのアンケートや面談を行っています。</p> <p>数字は申し上げられないが、コロナ期間、虐待が多かったように思います。家で皆が集っていたので、なかなか厳しい面がありました。タブレットに関連しますが、子供達の悩みをアンケートや対面での面談でのみならず、子ども家庭部と連携し、タブレットを使って相談できる窓口を昨年度開設し、そこと教育部が連携し、子供達の困り感や不安感を解決できるような手段が出来ました。</p>
大野委員	<p>ありがとうございました。</p>
美谷島委員長	<p>心のケアのアンケートは、タブレットの中に様式のようなものが入っているのですか。</p>
丸山指導課長	<p>心のケアのアンケートはデジタルではなく、紙に書いてもらいます。「困ったことはありませんか」という質問について、具体的に筆記してもらいます。</p>
美谷島委員長	<p>それを担任が読み取るのですか。</p>
丸山指導課長	<p>そうです。</p> <p>もちろん今後もずっとそれで良いのか、チェックしたうえで自分で打ち込んでという方法が良いのかは、今後の課題だと思いますが、最初始めた時は、全部書いてもらっていました。</p>
美谷島委員長	<p>読み取るのは、担任の力量による気がします。</p>
丸山指導課長	<p>何についてという項目は、チェックするようになっていて、それについて記載する方法です。全部文章で記載するのではない。</p> <p>友達について、体の事などの項目があり、お家で困っている事の項目の中に、誰かの世話をしているか、などヤングケアラーを把握する項目があります。</p>
美谷島委員長	<p>大野委員がおっしゃった虐待などに関しては、たとえば両親に怒られる、ぶたれる、という項目に記載するのですか。</p>
丸山指導課長	<p>おうちの事という欄を選んでもらい、「お父さんに怒られる」「お母さんにたたかれる」などを選んでもらいます。</p>
美谷島委員長	<p>項目が「学校生活の事」「おうちの事」などとなっていて、そのような中で答えるという事です。</p> <p>よろしいですか。</p>
大野委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>
福本委員	<p>よろしいですか。</p> <p>まず1点目、学務課の課題（1）のところに、「新たな需要が発生し続けているため」と記載されていますが、新たな需要とは具体的にどのようなものを指すのか教えてください。</p>

	<p>2点目は、指導課のところで心のアンケートを実施して、全員面談をスクールカウンセラーと更に担任が実施しているとありますが、一つ気になっている事は、子供の対応としては良いと思いますが、先生方の逆ウェルビーイングと言いますか、先生方が感染して休むという事例も多くなっている中で、全員面談は生徒にとっては良い事だと思いますが、先生が一人二人欠席した場合、という事を考えると、先生方の負担になっていなければ良いなというところを確認したいと思います。先生方の声とありますが、先生方のウェルビーイングという観点で、指導課の方で把握していることあれば教えてください。その2点です。</p>
美谷島委員長	はい。新たな需要について。
星野学務課長	<p>こちらは冒頭説明させていただきましたが、国の補助制度の一環ですので、用途がいろいろ変わり、令和2年度から毎年補助金の種類、対象が変化しています。具体的には、令和2年度当初はどちらかというところ感染症対策の消耗品的なものが中心でしたが、直近では、少し対象が広がり、直近のニーズでいえば、Co₂モニターなどがあります。補助金の対象が広がってきているので、例えば、ある学校では、マスクを外さずに演奏できる、ミニキーボードを45台購入したりしています。補助金の対象が許す範囲内で必要なものを購入して、学校活動の幅を広げています。それを新たな需要という意味で、記載させて頂きました。</p>
福本委員	ありがとうございます。
美谷島委員長	次に全員面談について、指導課から、実施した結果について説明をお願いします。
丸山指導課長	<p>はい。全員面談ですが、スクールカウンセラーによる全員面談は小学校5年生と中学校1年生に行っています。これは東京都全体で行っていることで、スクールカウンセラーの仕事としてやって頂いています。</p> <p>そのほかの全員面談に関しては、中学校においては、相談したい人に相談するという方式をとっている学校がある事を聞いております。例えば、校長先生に相談したい人は校長先生に相談し、養護教員であったり、学年主任であったり。ですので、クラス担任だけが負担があるという事ではなく、皆で皆を見るという形で進めている学校があります。</p> <p>小学校については、逆に自分のクラスの事は、自分で知りたいという事で、アンケートをもとにやりますので、短い時間で、アンケートを見ながらどう？という感じで、そんなに負担でもなく、休み時間やお昼休みを使ったりしながら、いろいろなやり方があると思いますが、そこで話題に上がったお子さんについては、養護教員が面談したり、そういう形でやりました。</p>
福本委員	ありがとうございます。
美谷島委員長	<p>私の方から、二つほどあります。</p> <p>一つは、ツールとして活用しているタブレットについてですが、ミニ研修とか、メールマガジンなど、いろいろな事をやって頂いて、非常に学校としてはありがたいという印象を持っていると思いますが、これは講習別になっているのですが、それとも一斉ですか。授業のツールとして活用する場合、小学校と中学校では少し違うと思うのですが。</p>

丸山指導課長	<p>メールマガジンについては、いろいろな有益な情報を広めるため、という事が多かったです。これは一斉です。小学校も中学校も関係なく、困ったときにここを見てくださいというのが最初は多かったです。</p>
美谷島委員長	<p>使い方、操縦の部分ですね。</p>
丸山指導課長	<p>そうです。ミニ研修についても、どうしても最初は使い方ですので、小・中一緒です。</p> <p>内容に関する研修につきましては、年次研修、初任研、2年次研、3年次研などで、まずは小・中分かれて内容についてはやっています。</p> <p>最初の頃は使い方ですし、まずは、初任研、10年研などでやったうえで、そこで集まったものに関しては、別々のチャンスを作ってやったこともあります。全て分かれてという事ではなく、ほぼ一緒ですが、別れてやれるところは、ほんの1回か2回かですが、別れてやっています。</p>
美谷島委員長	<p>ソフト面として、どうやって使っていくのか、小・中学校別に、最初に導入する時に教育長が先頭を切って、校長を集めて要望を聞いたと思いますが、小・中学校別、教科別で委員会を作っているのですか。</p>
丸山指導課長	<p>委員会は作っておりませんが、令和2年度の9月に配布し、12月の時点で、得意な先生がいらっしゃったので、各教科別の冊子を作りました。教科別に作ってもらったものを冊子にして、各学校にデータを配布し、冊子でも2冊ずつ配布しました。</p> <p>ただし12月に配布した時点で、それを超え、紙とかデータで落とすより、先生達の使い方のスピードが早かったので、タブレット活用週間などで、指導課が見に行った時に、その学校のニーズに合った指導ができるようにという方向にシフトしていったということが本当のところですね。</p> <p>学校によっては全然進んでいなくて、どのように使うのか、という学校もありました。小学校でいうと、子供達がタブレットを持ち帰って、共有のデータの中で、それぞれが宿題をしているという学校もありました。ですので、一律にという事がだんだん少なくなり、校種別にという事をあまりやらなかったのは、このようなことが理由です。</p> <p>実態を見て指導課が対応していった事は、良かったのではないかと思います。</p>
美谷島委員長	<p>はい、わかりました。他よろしいでしょうか。</p>
福本委員	<p>1点確認してよろしいでしょうか。</p> <p>指導課にですが、これは、コロナ禍における学校生活について、という事業名の中ですよね、その中にタブレットの活用の話が入っているわけ、ICTの推進という事業ではないですよね。</p>
丸山指導課長	<p>ICTの推進は別の事業になります。</p>
福本委員	<p>そうですね。コロナ禍における学校生活について、というくくりの事業の中で考えると、ICTを活用する事によって、学校に来られない事をカバーするという発想ですよね。と考えると、最後の課題への対応、今後の方向性というところで、必ず1回以上タブレット活用週間を設けないといけない、という事は少しおかしいのではないかと思います。</p>

	す。伝わりますか。
丸山指導課長	これは、令和3年度の事で、4年度はこの通り実施しました。 ただ、少し違うなという感じでしたので、来年度はこのやり方ではなく、テーマを決めて見に行くなど、視点を変えていきたいと思います。
福本委員	ICTの活用という事業であれば、なんの違和感も持たないのですが、コロナ禍における学校生活の事業の中にこれが入るのは、少し違うのではと思います。
丸山指導課長	コロナ禍としては、終了した、軌道に乗ったと思います。
福本委員	わかりました。
美谷島委員長	よろしいでしょうか。 それでは、議事の第2、特別支援教育について進めてよろしいでしょうか。 これも、2課にわたっています。指導課長と教育センター所長ですね。まずは、指導課長からお願いします。
丸山指導課長 野崎教育センター所長	【議事（1）②「特別支援教育（インクルーシブ教育の推進）」の説明】
美谷島委員長	ありがとうございました。 特別支援学級の指導員に、教員免許と書いてありますが、何の教員免許でも良いのですか、小学校に配置するのですよね、小学校の教員免許ですか。
野崎教育センター所長	特別支援学級は、中学校にもございますが、教員免許に関しましては、おっしゃるとおり何の教員免許でもかまいません。
美谷島委員長	どうでしょうか。只今のご説明に、何かご意見ご質問ありますでしょうか。
大野委員	よろしいでしょうか。 今のお話を伺いまして、インクルーシブ教育が、共生教育ということで、やはり子供達にとって、大変価値のある事だというお話でしたが、想像するに、現場の担任の先生の負担がとて大きいかなという事で、であるからサポートする方達を付けているのだと思いますが、現場の声はどうかかなと思いました。たまたま、友人が学校の先生をやっていて、豊島区ではありませんが、このような教育が入ったことによって、大変だという話を伺ったので、先生達の声も、働き方改革という事で、お話されていて、子供達は自然に障害のあるお子さんを受け入れていると思いますが、先生が大変なのかなという事をとても感じています。
野崎教育センター所長	おっしゃるとおり、人の配置につきましては、今に限った事ではなく、前々から支援をする人材を配置してほしいという学校の声はありまして、最近はインクルーシブ教育が保護者の方にも浸透し、いわゆる障

	<p>害を持っていても通常学級で学習したいというお子さんもいらっしゃいますので、ますます現場からも人を配置してほしいという声が増えています。教育センターとしても努力しているのですが、ずっと人を増やし続けることはかなり厳しいと言っています。</p> <p>もし障害のあるお子さんが通常学級に入りたいと希望した場合は、必ず校長先生と保護者とセンターとで面談をし、合理的配慮について合意形成を図っています。保護者の方にも、学校ではここまではできるがこれ以上はできないという事を保護者の方にもかなりご理解頂いて、インクルーシブ教育を進めている現状です。</p>
大野委員	<p>やはりその場合、保護者の方の想いはすごく大きいと思います。3年前に、知り合いの方で、担任の先生にも校長先生からも、特別支援学校に行った方が良いといわれましたが、教育委員会、教育センターに相談したのだと思いますが、どちらでも良いですよとお返事頂いたので、親の心も動いてしまい、そうしているうちに、1学期に入ってしまう、途中から、支援学校に通おうとしたが、受け入れてもらえず、引っ越していったしまったという残念なケースがありました。そのような事例は沢山ないと思いますが、相談される親御さんもお苦勞をされているので、心の部分でも是非サポートして頂けるようお願いしたいと思います。</p>
美谷島委員長	<p>よろしいでしょうか。</p>
野崎教育センター所長	<p>本当に肝に銘じて、教育センターとしても丁寧に学校と連携して、保護者や子どもの心に寄り添っていきたくと思います。</p>
大野委員	<p>よろしくお願ひします。</p>
美谷島委員長	<p>基礎データについて、お聞きしたいのですが、学務課長になると思うのですが、豊島区は小学校から公立の中学校に進学する進学率はどのくらいでしょうか。</p>
星野学務課長	<p>手持ちの資料が無く、すぐにはお答えできないのですが。</p>
美谷島委員長	<p>おおざっぱで良いです。</p>
星野学務課長	<p>東京都が公表している、区立小学校を卒業した方が区立中学校に進学した進学率、23区で比較できる数字の情報は毎年とってしまっていて、それによると、65%程度だったと記憶しています。</p>
美谷島委員長	<p>そうすると、今お伺ひしたのは、だいたい小学校で知的固定学級は1%ぐらいの割合ですね。それが中学校になると1.6%と増えますね。それはつまり私学に行く子いるから、割合が増えるのでしょうか。</p>
星野学務課長	<p>東京都の細かい統計を見れば、都立の特別支援学校に行く割合も、それぞれの自治体単位で出ていたと認識しているのですが、その結果がどうだったかは手持ち資料にありませんので、教育センターの見解を参考にいただければと思います。</p>

野崎教育センター所長	<p>根拠となる資料がない中ですが、傾向として、小学校は通常学級に行かれる方が保護者の希望もあって多いですが、中学校となると、各段と学習面も厳しくなるので、中学校から特別支援学級の方にとという方もいらっしゃると思います。そういう方も加算されて増えているのかなと思います。</p>
美谷島委員長	<p>はい。わかりました。 福本委員、何かありますか。</p>
福本委員	<p>ありがとうございます。 実際、現場は厳しいなと思って拝見していたのですが、確かに支援員という人的補助が必須だという事は、どこの自治体でも一緒だと思うのですが、センター長がおっしゃるように限界があると思います。 では何ができるのかというときに、先ほど要小学校が推進校ということで、取り組みをされているということでしたが、要するにソフトとハードと言いますか、人を付けるということ以外にできることはないのか。もしくは、要小学校のような研究指定を受けている学校での取り組みを、より効果的に使っていないと、人だけを配置するという事だけでは、必ず限界がくるのではないかと思います。 私はこのような立場なので、要小学校がどれだけの実践ができているのかわからないのですが、確かにすべての学校で進めていくのは難しいのですが、ある程度良いやり方を見付けていかないと、間に合わないのではと思います。今中学校が厳しいというお話でしたので、であれば、中学校に力を入れて、要小学校だけではなく、何かモデル校的な事、実験的な事が出来ないかなと思っています。今年度だけでなく、その先を見た時に、先細りにならなければ良いなという事を危惧として申し上げさせていただきます。</p>
美谷島委員長	<p>指導課長にお尋ねします。 インクルーシブの実践的研究授業が、要小学校ということで、今委員の方からもお話があったところですが、結果令和3年度までに、具体的にどのような部分が成果として挙げられたのか、それが汎用化するかどうかですが、私の経験の中で申し上げますと、私の場合は中学校でしたが、中学校の特別支援学級の校長もやっていたが、教育委員会の姿勢として、小・中の交流及び協働について、小学校は進められるけれど、何故中学校はなかなか進められないのかということをよく言われました。中学校も一生懸命やっていたのですが、校種によって若干違いがあります。教科担任制と全科担任制の違いなどもあるし、どうやって授業時数を活用していくのかという部分もあります。 要小学校の令和3年度までの実績をご説明頂けないでしょうか。</p>
丸山指導課長	<p>はい。 やはり、インクルーシブ教育に関してというところで、日野市の事例と豊島区の事例を見ても、まずは教科外、行事ですとか、特別活動から始まっているという事は同じでした。 豊島区として進んでいる点は、教科指導における、協働及び交流の推進というところで、要小学校はどの単元で、どんなことができるかということ掘り起こしているところです。同じ学級で45分間過ごす中での、到達目標はそれぞれ違って来るかもしれません。同じ時を過ごすなかで、目標は変わったとしても、それに向けて、例えばワークシートな</p>

	<p>ども、特別支援学級から一つ出して、通常学級からも一つ出すのですが、通常学級の子が、特別支援学級のワークシートを使って、それが役立つという事もありましたし、特別支援学級のお子さんが、一緒に過ごす事によって、普段よりいろいろな方と交流できるので、積極性が増したという事もありました。逆に、通常学級のお子さんが特別支援学級のお子さんを見て、こんな考えもある、こんな事も出来るなど、お互いの良さを発見することもあります。理科や音楽などいろいろな教科の中で、それがやれたという事が成果です。</p> <p>通常学級と特別支援学級の担任同士が情報共有をすることで、こんな方法がある、こんな資料が作れるという事を話合う関係ができた事も、この実践の良いところです。</p> <p>沢山予算も頂いていますので、職員室のレイアウト替えをして、先生達と一緒に語れるスペースを作ったり、子供達にとっては、学校図書館で、床に座って一緒に語れるようなスペースを設ける改装もやってもらいました。</p> <p>これまでの交流は、遠足、校外学習などに留まっていましたが、各教科のどこでどのような授業をすれば効果があるかという事を、各教科でというところまではまだまだいきませんが、各学年で進んでいるところです。</p> <p>また、中学校に関しては、特別支援学級がない学校でも、特別支援教室はありますので、特別支援教室に行った子が、自分のクラスに戻った時に、何が必要かということ、資料2の補足資料1のところに記載していますが、ユニバーサルデザインに関して、小学校においても中学校においてもかなり深く考えて、いろいろな実践を試しているところです。</p> <p>特別支援学級がない学校におきましては、ユニバーサルデザインの推進から初めてみようという事で、今年度、そして来年度に向けて課題になっているところです。</p>
美谷島委員長	<p>具体的にいうと要小学校では、教科において、何年生は何時間ぐらい同じ授業でやったのかというデータはありますか。</p>
丸山指導課長	<p>すべての学年で10%を目指しています。ただし、10%というのかなりの時数ですので、まだ至ってはいないのですが、目指せ10%で進めているところです。正確な時数は出ていませんが。</p> <p>ただ、実践校だったから出来て、来年度から出来なくなってもいけませんので、精査しなければいけないかなと思っています。</p>
美谷島委員長	<p>簡単に言うと、1組に例えばA組の子が入ってくる、担任の先生が2人いるわけですね、そうするとチームティーチングでやるということですか。</p>
丸山指導課長	<p>授業におきまして、通常学級の先生がT1、介助という形で入る時もありますし、T1、T2でやることもありますし、特別支援学級の先生がT1になることもあるという事を聞いています。</p>
美谷島委員長	<p>野崎教育センター所長、良い質問ではないかもしれませんが、特別支援学級の指導員と、学級運営補助員とありますが、特別支援学級指導員の報酬は、だいたい月にするといくらぐらいなのですか。</p>

野崎教育センター所長	だいたいですが、20万円ぐらいです。
美谷島委員長	学級運営補助員は？週4日勤務ぐらいだと。
野崎教育センター所長	少しお待ちください。
美谷島委員長	特別支援学級指導員は、会計年度任用職員になるのですか。
野崎教育センター所長	そうです。どちらも会計年度任用職員です。失礼しました。約9万円と少しです。
美谷島委員長	配置した学校からはどのような声がありますか。
野崎教育センター所長	大変ありがたいという、高い評価を頂いています。
美谷島委員長	どんな点でありがたいのですか。
野崎教育センター所長	とにかく、猫の手も借りたいという点で、人がいればそれだけ担任が助かる。困っているお子さん自身にも支援が行き届き、保護者の方からも、このような方がいて大変有難いという声を頂いています。それら諸々合わせて良い評価を頂いています。
美谷島委員長	特別学級指導員の方は、教員免許を持っていますよね。そうした場合、例えばある特別支援学級で6人ないし8人児童・生徒がいた場合、先生が授業していて、その中で、T1、T2ぐらいで、補助して教えることもやっているのですよね。
野崎教育センター所長	そうです。T2で実施しています。
美谷島委員長	指導課長、要小学校の職員室は、特別支援学級の職員室と別にあるのですか。一緒ですか。
丸山指導課長	別です。しかもとても遠いです。 2階の端と1階の端にあり、本当に今まで別々経営だったので、これを機に通常級の職員室と一緒に語れるスペースと、情報共有するために、プロジェクターを付けて、あっちとこっちで何をやっているのか一緒に映して、情報共有するためのホワイトボードを付けてもらい、やっとこの頃稼働したところです。
美谷島委員長	例が話せないような部分が多いと思うので、通常学級の職員室の中にはスペースはないのですか。
丸山指導課長	スペースがないところを整理して、場所を作ったということです。
美谷島委員長	はい。わかりました。 よろしいでしょうか。

大野委員	モデル校として、要小学校の方で頑張って取り組んでいらっしゃるという事ですので、お忙しいでしょうが例えばそこに視察に行かれたりする事はあるのですか。
丸山指導課長	東京都の事業ですので、東京都から視察に来られて、昨年度は東京都の教育長もいらっしゃいました。その他にも定期的に係の方がいらっしゃると同時に私たちも行きます。また、このことについて、やはり議員の先生もとても興味を持たれていて、一緒に行こうという事でしたが、コロナの為行けなかったのですが、3学期にどうにか行けたらと考えています。非常に関心が高いところですので、同じブロックの先生方をお呼びしたり、私たちも定期的に行っているところです。
大野委員	分かりました。
美谷島委員長	それでは続いて、議事の2その他ですが、1回目の委員会の時に評価対象となっていた、「オリンピック・パラリンピックの機会を生かした教育の推進」について、指導課長の方から補足説明をお願いします。
丸山指導課長	【議事（2）その他 「オリンピック・パラリンピックの機会を生かした教育の推進」補足説明】
美谷島委員長	はい。今補足資料で説明していただきましたが、前回1回目の時に説明していただいた、事業分析シートが形として残るわけですね。これがどのように訂正されるというのはいないのですか。これはこのままいくという事ですか。
丸山指導課長	直す必要があれば直しますが、ここで今後の方向性として、学校レガシーを教育課程に位置付けるという事で、カリキュラムマネジメント等の事を思いながら書いたのですが、それが表れていないようでしたら、訂正します。
美谷島委員長	いや、それで良いという事ですよ。
丸山指導課長	はい。そのとおりです。
美谷島委員長	よろしいでしょうか。
大野委員	先程お返事頂いた中で、ヤングケアラーのお話が出ましたが、どのような感じで対応を進めていらっしゃるのかお伺いしたいです。
美谷島委員長	別の話題ですね。
大野委員	はい。先程の（1）コロナ禍における学校生活についての件です。気になって残っているのです。
美谷島委員長	全員面接の件ですよ。
大野委員	そうです。

丸山指導課長	<p>全員面接の際に、家族の事、お家の事ということで、ヤングケアラーの事も含めてお話できるようにしたら良いということで、この夏休みから2学期の頭にかけて、子ども家庭部の方でタブレットを用いたかたちで、ヤングケアラーのアンケートを実施しました。これは無記名で行ったのですが、今その結果を集計しているところで、どのくらいのお子さんが自分で認識、自分で思っているのかということ、データでもらっているところです。</p> <p>無記名ですので、ではそれは誰なのかと探すわけではないのですが、そのくらいの割合のお子さんがそのような状況にあるという事を認識しながら、今度は面接をしていかなければいけないということで、3学期にまた面接がありますので、そこは指導課としてどのように聞き出すか、探し出すという事ではないのですが、困っていることがないか聞き出すひとつのきっかけになるかなと考えています。</p>
大野委員	ありがとうございます。
美谷島委員長	よろしいですか。
福本委員	今日配布して頂いた、オリパラの補足説明資料、これはデータとしてどこかにアップされるという事になるのですか。
事務局	こちらは補足資料となりますので、ホームページには公開しない扱いになります。ホームページに公開されるのは、事業分析シートと報告書です。
福本委員	<p>だとしたら、もったいないなと思いました。</p> <p>1回目に頂いた事業分析シートに成果を書くところがないのですよね。そうすると、3の課題及び今後の方向性のところに、課題として、「レガシーをどう残していくのか、教職員が具体的なイメージを持っていないことが多い」という課題になっているのですが、指導課長のお話だと、カリキュラムマネジメントの感覚が先生方にもついてきたという事がありましたね。であれば、カリキュラムマネジメントの発想で、レガシーを少し違う形で他の教育活動等に織り込んで位置付けていくという発想ができたが、具体化までは発想できていないというような書き方をした方が良いのではないのでしょうか。せっかく豊島区で他の自治体ではなかなか難しく進んでいないカリキュラムマネジメントが進んできたのであれば、すこしそれを匂わせて書いた方が良いのではないかと思ったので。この資料がアップされるのであれば、最後の課題と今後の方向性のところは文章を少し変えて頂いた方が良いのではないかと個人的に思いました。判断は私達にはないと思いますが。</p>
金子教育長	<p>ご指摘分かりました。</p> <p>事業分析シートについて、どうするか検討させていただきます。</p> <p>改めて見ると、数字的な捉え方、どのくらい進んだのかという事はしっかり記録されていますが、このような良い成果があった、ここに行きついていくというような事が少し書きにくいフレームではあると改めて思いました。</p>
福本委員	区民の方がこれを見られないのであれば、教育委員会の意図が伝わらずに終わってしまうのがもったいないなと思いました。

金子教育長	そのような成果があるのであれば、そのような書きぶりをした方が良いでしょう。わかりました。
美谷島委員長	只今福本委員がおっしゃった事は、非常に重要な事で、カリキュラムマネジメントとは具体的に言うと、例えば、オリパラ教育が具体的に教育課程の中に、横断的に入っているわけですよね。そのような部分が、なかなか他の学校では、具体性が見えないので、そのような部分が解れば、先生方の中で、カリキュラムマネジメントというのは、校長や副校長がやっていたら良いという事ではないのだ、こういうことなのだよ、ということが少しずつ見えてきたのではないかと、という事が書けるのではないかと。それが課題として、という意味ですよ。
福本委員	そうです。 課題は、必ずしも悪い事ばかりクローズアップする必要はないのではないかと思います。特にカリキュラムマネジメントなので、他の自治体も進まなくて困っているところが沢山あるので、豊島区で、先ほど指導課長がおっしゃったような事が言えるのであれば、これは発信しないと勿体ないかなと思いました。
美谷島委員長	よろしいでしょうか。 それでは、全体で何かありますか。 ないようでしたら、本日の議事は全て終了しました。 ありがとうございました。 事務局の方から何か連絡があればお願いします。
事務局	次回までの流れ説明
美谷島委員長	それでは、以上をもちまして第3回教育に関する事務の点検・評価委員会を終了します。 ありがとうございました。
	—閉会—

提出された資料等	<p>【資料1】事業分析シート「コロナ禍における学校生活について」 (補足資料1) 新型コロナウイルス感染症の発生状況について (補足資料2) コロナ禍における学校生活</p> <p>【資料2】事業分析シート「特別支援教育（インクルーシブ教育の推進）」 (補足資料1) 特別支援教育について (補足資料2-1) 就学相談・チームステップの実績 (補足資料2-2) 区立小・中学校特別支援学級・特別支援教室児童・生徒の推移 (補足資料2-3) 特別支援学級指導員と学級運営補助員 (第1回委員会分の補足資料) オリンピック・パラリンピックの機会を生かした教育の推進</p>
----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------